

高等学校の成績およびA大学入学試験の種別と 入学後の学習成果との関連性について (第1報)

—管理栄養士養成を目的とする栄養学士課程に焦点をあてて—

Study of the relationship among records from the high school, records of the entrance examination and the records during registered dietitian course of the A college (part 1)

山口 敦子*

Atsuko YAMAGUCHI

荒川 義人*

Yosihito ARAKAWA

大野 和美**

Kazumi OHNO

矢野 理香**

Rika YANO

The purpose of this study was to investigate the relationship among the records from the high school, records of the entrance examination and records during the registered dietitians about the students who entered the A college.

1. Relationship between records in high school and records in entrance examination.
2. Relationship between records in high school and records in university.
3. Difference between kind of entrance examination and records in university.
4. Relationship between records in entrance examination and records in university.

The result were as follows :

The relationships between result of entrance examination of English with records in high school were observed. The relationships between records of short paper in recommendation entrance examination and records of English in general entrance examination with records in university were observed. English results were the best and, next, were the order of mathematics and chemistry.

The goodness of records of students in university first was the recommendation entrance and secondly was general entrance examination, thirdly was entrance examination by national center for college entrance examination.

Key words: education of registered dietitian, entrance examination, outcome of study at university

* 天使大学 看護栄養学部 栄養学科

(2002年12月10日受稿、2003年2月5日審査終了受理)

** 天使大学 看護栄養学部 看護学科

I. はじめに

平成12年度の管理栄養士法の改正により管理栄養士の業務が明確化され、管理栄養士養成を目的とした課程においては、5つの能力の涵養を目指すこととされた¹⁾。その第一は、管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力、第二は、管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力、第三は、チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力、第四は、公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる能力、第五は、健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力である。

これを受けて、平成14年4月より新たなカリキュラムに基づいた管理栄養士の養成がスタートした。カリキュラムは9項目に分類され、それぞれの教育内容ごとに目標が細かく表示されている²⁾。9項目の内容は、社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論である。さらに、新カリキュラムに対応した管理栄養士国家試験の出題基準についての検討があり、策定されるに至った³⁾。

管理栄養士はその役割を十分発揮するために高度な専門的知識及び技能が必要であり、管理栄養士養成校では教育目標を達成するためにカリキュラム全体や各科目の教育内容などの検討を行っている。そこで、教育目標を達成するための学習に必要な能力を備えた学生をいかに入学生として確保するかを検討することが重要であり、その能力を適切に測定する入学試験の実施が望まれる。

現在、A大学看護栄養学部栄養学科の入学者選抜方法は、学力試験を課す一般入学試験（以下、一般入試と略）およびセンター試験利用入学試験（以下、センター入試と略）、学力試験を課さない推薦入学試験（以下、推薦入試と略）と社会人入学試験がある。学科試験を課す入試では個人面接試験を行ない、学科試験を課さない入試では、小論文試験、面接試験（個人面接試験・集団面接試験）などを総合して合格者を選抜してきた。しか

し、A大学では入学試験（以下、入試と略）の評価が入学後の学習の成功を予測しうるものかどうかについての研究はこれまで行われていない。また、高等学校（以下、高校と略）の成績が、入学後の学習の成功を予測しうるものかどうかについて、高校の成績が評価される推薦入学者の入学後の学習成果についての研究も行われていない。

入試に関する研究については、国立大学入学者選抜研究連絡協議会や医学、看護教育の分野でいくつかの報告がみられるが、管理栄養士養成教育機関としての報告はまだみられない。そこで今回、管理栄養士養成課程の入試のあり方を検討するための実証的な情報を得るために、高校の成績、入学試験の成績（以下、入試の成績）、入学後の成績について調査、分析を行うことを目的として行われた。

II. 研究目的

A大学で実施されてきた入学者選抜方法、および高校の成績は学生の入学後の学習の成果を予測しうるものかどうかについて、実証的なデータを用いて検討する。

- ① 高校の成績と入試成績との相関。
- ② 高校の成績と入学後の成績との相関。
- ③ 入試の種別と入学後の成績の差。
- ④ 入試成績と入学後の成績との相関。

上記①～④の結果から入学試験のあり方について考察する。

III. 研究方法

1. 研究対象者

平成12年度、13年度のA大学看護栄養学部栄養学科の入学者195名を対象とした。195名のうち、推薦入試入学者；83名（内男子1名）、一般入試入学者；106名（内男子2名）、センター入試入学者；6名（社会人入学者は対象外）であり年度別内訳は表1に示す通りである。

2. データ収集方法

データ収集にあたり、大学倫理委員会の審議を受け、学長、教務部長、看護学科長、栄養学科長、入試委員長の許可を受けた。さらに入試科目出題者および入学後の当該科目責任者の同意を受け、

表 1 研究対象者の年度別・選抜方法内訳

	推薦入試	一般入試Ⅰ期	一般入試Ⅱ期	センター試験利用入試	*社会人入試	合計数
平成12年度入学者	36	54	5	実施せず	1	96
平成13年度入学者	47(1)	47(2)	実施せず	6	1	101

()は男子 *対象外

研究対象者195名について大学が保管している三種類の資料(①高校の成績、②入試成績、③入学後の成績)を借用した。①高校の成績(5段階評価の平均値):高校から提出された成績(国語、社会、数学、理科、保健、芸術、英語、家庭科の各科目の評定平均。②入試成績の平均値(入試科目は表2-1):平成12年度入学者は一般入試が英語、世界史、日本史、国語より1科目選択、数学、化学、生物より1科目選択の2科目学科試験(各科目とも100点満点、合計200点満点)の得点。推薦入試は小論文試験(以下小論文と略)、個人面接、集団面接の評点(60点満点)。平成13

年度入学者の一般入試は英語(必修)、国語、数学より1科目選択、化学、生物より1科目選択の3科目学科試験(各科目とも100点満点、合計300点満点)の得点。推薦入試は小論文、個人面接、集団面接の評点(55点満点)。③入学後の成績の平均点(以下、入学後の成績と略):大学入学後(平成12年度と平成13年度)に受講した科目のうち研究対象としたのは、対象者全員が履修する必修科目と選択科目の1科目(有機化学)の得点(各科目100点満点)である(表2-2)。

表 2-1 A 大学入学試験科目

平成12年度				
推薦入試	個人面接	小論文	集団面接	
一般入試Ⅰ期	個人面接	学科試験Ⅰ(英語Ⅰ・英語Ⅱ、国語Ⅰ・国語Ⅱ、日本史B、世界史Bより1科目選択) 学科試験Ⅱ(数学Ⅰ・数学Ⅱ、化学ⅠB、生物ⅠBより1科目選択)		
一般入試Ⅱ期	個人面接	小論文		
社会人入試	個人面接	小論文		
平成13年度				
推薦入試	個人面接	小論文	集団面接	
一般入試	個人面接	学科試験Ⅰ(英語Ⅰ・英語Ⅱ)	学科試験Ⅱ(国語Ⅰ・国語Ⅱまたは数学Ⅰ・数学A)	学科試験Ⅲ(化学ⅠBまたは生物ⅠB)
センター試験利用入試	個人面接	学科試験Ⅰ(英語Ⅰ・英語Ⅱ)	学科試験Ⅱ(国語Ⅰ・国語Ⅱまたは数学Ⅰ・数学A)	学科試験Ⅲ(化学ⅠBまたは生物ⅠB)

表 2-2 研究対象となった授業科目一覧

	平成12年度	平成13年度
英語	英語Ⅰ ¹⁾	
	オーラルイングリッシュⅠ	オーラルイングリッシュⅠ
専門基礎科目	有機化学	有機化学
	生化学Ⅰ	生化学Ⅰ
	解剖生理学Ⅰ	解剖生理学Ⅰ
専門科目	食品学総論Ⅰ	食品学総論Ⅰ
	食品学総論Ⅱ	食品学総論Ⅱ
	栄養学総論Ⅰ	栄養学総論Ⅰ
	栄養学各論Ⅰ	調理学
	調理学	
	給食管理 栄養指導論Ⅰ	

1) 英語Ⅰの内容: 文法の復習とリーディング中心

3. 倫理的配慮

本研究において、秘密保持という視点から、記録類の取り扱いについて、以下のような倫理的配慮をした。まず、記録類の借用にあたり、プライバシーの保護、記録類の取り扱い場所と方法、記録類使用者名、記録類借用期間を明記した文章で記録類使用許可を倫理委員会に申請した。次に、研究対象者個人が同定されることを防ぐために、研究者が対象者全員に個人コード番号をつけた。そして記録類の個人名をコード番号に置き換え、個人名すべてを削除した。個人名が特定されないデータとした上で、数量的処理に関しては学外の研究補助者に依頼した。また、記録類は、施錠可能な場所で保管した。

4. データ分析方法

入試の種別と入学後の成績については、入試の成績を独立変数とし、入学後の成績を従属変数として、三種類の入試で入学した学生の入学後に受講した科目成績との相関をみるために、一元配置分散分析を行い、有意差があると認められた場合多重比較検定を行った。高校の成績と入試成績、高校の成績と入学後の成績、個人面接評点と入学後の成績、小論文評点と入学後の成績、集団面接評点と入学後の成績、入試成績と入学後の成績については、年度別にピアソンの積率相関係数を求めた。

IV. 結果

1. 高校の成績と入試成績との相関

高校の成績と入試の成績との関連については表3に示すように、平成12年度入学者では、合計点、学科Ⅰ（英語、世界史、日本史、国語4科目から1科目選択）、学科Ⅱ（数学、化学、生物3科目

より1科目選択）のいずれとも有意な相関は認められなかった。平成13年度入学者では、合計点、学科Ⅰ（英語必修）、学科Ⅱ（国語、数学どちらか1科目）、学科Ⅲ（化学、生物どちらか1科目）の中で、高校の成績と学科Ⅰ（英語）の入試成績の間に有意な相関が見られた。

2. 高校の成績と入学後の成績との相関

高校の成績と入学後の各科目の成績（平均点）との相関をみた結果を、表4-1（平成12年度）、と表4-2（平成13年度）に示す。平成12年度入試では、食品学総論Ⅰ、栄養学総論Ⅰ、栄養学各論Ⅰ、調理学、給食管理、専門科目平均、全科目平均に相関がみられ、高校の成績と入学後の成績には弱いながらも相関が認められた。平成13年度入試では、食品学総論Ⅱ、栄養学総論Ⅰ、調理学、専門科目平均、全科目平均に相関がみられた。その他は相関がみられなかった。このことから、入学者選抜の資料として、高校の成績は有効であることがあらためて示唆された。

3. 入試の種別と入学後の成績との差

入試の種別と入学後の成績（平均点）の差を求めた結果は、表5-1（平成12年度）、表5-2（平成13年度）に示す通りである。平成12年度では、入試の種別と入学後の成績とに有意差がみられなかった。平成13年度では、食品学総論Ⅱで、推薦入試と一般入試で有意差がみられた。また、栄養学総論Ⅰでは一般入試とセンター入試で有意差がみられ、推薦入試とセンター入試でも有意差がみられた。さらに、専門科目の平均では一般入試と推薦入試、推薦入試とセンター入試で各々有意差がみられた。入学後の成績の全科目平均点では、推薦入試とセンター入試で有意差があった。

入学後の成績を入試の種別間で比較すると、推薦入試、一般入試、センター入試の順に入学後の

表3 高等学校に成績（評価平均値）と入学試験成績との相関

平成12年度				
	合計		学科Ⅰ (英語・世界史・日本史・国語)	学科Ⅱ (化学・生物・数学)
評定平均	0.092		-0.075	0.181
平成13年度				
	合計	学科Ⅰ (英語)	学科Ⅱ (国語・数学)	学科Ⅲ (化学・生物)
評定平均	0.126	0.309*	0.014	-0.151

(* : $p < 0.05$)

表 4-1 高等の成績と入学後の成績との相関係数（平成12年度）

	科目名	評定平均
英語	英語 I	-0.004
	オーラルイングリッシュ I	0.185
	英語平均	0.095
専門基礎科目	有機化学	0.170
	生化学 I	0.112
	解剖生理学 I	-0.170
	専門基礎科目平均	0.081
専門科目	食品学総論 I	0.244*
	食品学総論 II	0.138
	栄養学総論 I	0.239*
	栄養学各論 I	0.365**
	調理学	0.256*
	給食管理	0.357**
	栄養指導論 I	0.140
	専門科目平均	0.367**
全科目平均	0.266*	

(** : p<0.01 * : p<0.05)

表 4-2 高等の成績と入学後の成績との相関係数（平成13年度）

	科目名	評定平均
英語	オーラルイングリッシュ I	0.159
専門基礎科目	有機化学	0.111
	生化学 I	0.039
	解剖生理学 I	0.059
	専門基礎科目平均	0.171
専門科目	食品学総論 I	0.166
	食品学総論 II	0.352**
	栄養学総論 I	0.336**
	調理学	0.205*
	専門科目平均	0.378**
全科目平均	0.303**	

(** : p<0.01 * : p<0.05)

成績が高いことが確認されたが、各入試の受験者数にばらつきがあるので、今後の検討を要するところである。

4. 入試成績と入学後の成績との相関

推薦入試成績と入学後の成績（平均点）の相関係数を表 6-1（平成12年度）、と表 6-2（平成13年度）に示す。平成12年度では、小論文試験、個人面接試験、集団面接試験において、小論文試験と入学後の調理学の成績の間には相関がみられたが、この他には有意な相関はみられなかった。同様に平成13年度では、小論文試験と入学後のオーラルイングリッシュ I の成績で有意な相関がみられたが、この他はみられなかった。

次に、一般入試と入学後の成績の相関係数を表 7-1（平成12年度）、と表 7-2（平成13年度）

に示した。平成12年度では、英語と入学後の有機化学、栄養学各論 I、調理学で有意な相関がみられ、国語と入学後の給食管理でも有意な相関がみられた。化学または数学でも入学後の英語 I と有意な相関がみられた。同様に平成13年度では、国語と入学後の食品学総論 I に有意な相関がみられ、化学と入学後の食品学総論 II で有意な相関がみられた。

さらに、入学後の成績の専門分野別平均について一般入試の受験科目の成績との相関をみた。結果を表 8-1（平成12年度）、と表 8-2（平成13年度）に示す。平成12年度では、入学後の英語 I とオーラルイングリッシュ I の平均点、専門基礎科目平均点、専門科目平均点、全科目の平均点のすべてにおいて、入試科目の英語と国語の成績との間に相関がみられ、英語を選択した場合と国

表5-1 入試の種別による入学後の成績の差 (平成12年度)

	科目名		推薦入試 (N=36)	一般入試I期 (N=52)	一般入試II期 (N=5)	F値
英語	英語 I	平均値	74.92	77.04	71.80	1.093
		S D	9.32	9.48	2.95	
	オーラル イングリッシュ	平均値	75.44	75.25	76.40	0.034
		S D	9.8	9.61	5.55	
	英語平均	平均値	75.18	76.14	74.10	0.373
		S D	9.5	9.54	4.84	
専門基礎科目	有機化学	平均値	(N=30) 49.17	(N=39) 48.15	(N=3) 55.67	0.186
		S D	17.86	23.12	13.05	
	生化学 I	平均値	76.22	77.15	76.20	0.093
		S D	9.84	10.84	8.5	
	解剖生理学 I	平均値	70.86	75.31	69.20	1.919
		S D	10.69	12.29	7.19	
専門基礎科目平均	平均値	66.37	68.57	68.77	0.441	
	S D	17.16	19.94	11.65		
専門科目	食品学総論 I	平均値	77.11	77.96	67.60	1.611
		S D	12	12.72	9.74	
	食品学総論 II	平均値	70.75	72.5	69.40	0.662
		S D	8.83	7.85	9.79	
	栄養学総論 I	平均値	59.53	68.52	64.80	0.281
		S D	13.04	13.5	16.86	
	栄養学各論 I	平均値	78.75	73.56	74.80	2.376
		S D	10.23	11.62	9.71	
	調理学	平均値	73.17	70.00	71.60	0.891
		S D	10.52	11.41	8.53	
給食管理	平均値	78.53	74.63	75.40	1.369	
	S D	9.94	12.11	4.22		
栄養指導論 I	平均値	68.28	68.67	66.60	0.225	
	S D	5.67	7.74	6.58		
専門科目平均	平均値	73.73	72.25	70.03	2.360	
	S D	10.88	11.52	9.87		
全科目平均	平均値	72.21	72.05	70.45		
	S D	12.88	13.88	9.66		

(* : p<0.05)

語を選択した場合には英語を選択した学生が入学後の成績 (平均点) が有意に高かった。また同様に、生物と生物以外の科目 (化学と数学) とでは、入学後の専門科目平均点、全科目平均点に相関がみられ、生物と化学または数学を選択した場合で

は化学または数学を選択した学生が入学後の成績 (平均点) が有意に高かった。平成13年度では、入学後の専門基礎科目平均点、専門科目平均点、全科目平均点の全てにおいて入試科目との相関がみられた。専門基礎科目平均点、専門科目平均点、

表5-2 入試の種別による入学後の成績の差 (平成13年度)

	科目名		推薦入試 (N=47)	一般入試 (N=47)	センター入試 (N=6)	F 値
英語	オーラル イングリッシュ	平均値	(N=45) 84.2	(N=43) 82.88	(N=5) 76.80	1.159
		S D	11.21	9.59	10.92	
専門基礎科目	有機化学	平均値	(N=46) 60.65	62.43	75.00	1.184
		S D	19.77	23.27	18.97	
	生化学 I	平均値	82.30	(N=45) 80.16	(N=5) 80.00	0.236
		S D	12.835	17.89	14.58	
解剖生理学 I	平均値	75.70	(N=46) 78.70	71.50	2.485	
	S D	9.99	7.38	9.97		
	専門基礎科目平均	平均値	72.97	73.63	75.24	0.139
		S D	17.21	19.19	14.46	
専門科目	食品学総論 I	平均値	60.66	60.32	57.33	0.167
		S D	13.28	13.65	9.24	
	食品学総論 II	平均値	75.85	(N=46) 63.41	62.83	7.162
		S D	13.4	19.03	16.36	
	栄養学総論 I	平均値	78.02	(N=46) 74.40	* 61.33	4.220
S D		13.48	* 13.88	11.43		
調理学	平均値	80.7	78.17	71.67	1.966	
	S D	10.53	11.58	13.02		
	専門科目平均	平均値	73.81	* 69.08	* 63.29	7.463
		S D	14.84	16.43	13.06	
全科目平均		平均値	74.75	* 72.41	69.17	3.407
		S D	15.77	17.43	14.52	

(** : p<0.01 * : p<0.05)

全科目平均点において、数学を選択した場合と国語を選択した場合では、数学を選択した学生が入学後の成績が有意に高かった。同様に、化学を選択した場合と生物を選択した場合では、化学を選択した学生が入学後の成績が有意に高かった。

V. 考察

1. 高校の成績と入試成績との相関

高校の成績と入試成績とでは、13年度入試の結果から、とくに英語の入試成績との間に弱い相関があったが、他には相関はみられなかった。その理由として次の要因が考えられる。

まず第一に、今回の分析の対象者はA大学に入学した者のみであり、受験者全体の上位集団であった可能性がある。第二に、高校の成績はすべての

科目の平均点であるため、入学後に履修した特定の科目との間に相関は現れにくい可能性がある。第三に、分析の対象とした評定の方法や尺度の違い、つまり、高校の成績の評定として用いた尺度は1.0~5.0の相対評価によるものであり、入試や入学後の成績は0~100点の絶対評価を用いている。このような性質の異なる尺度、評価を使用して分析したことによる可能性も考えられる。

次に、平成13年度入学者については弱い相関ではあるが高校の成績と英語の入試成績の間に相関が認められたことを考えてみたい。平成12年度は英語、世界史、日本史、国語から1科目選択、数学、化学、生物から1科目選択の2科目受験であった。平成13年度は英語が必修、数学、国語から1科目、生物、化学から1科目の3科目受験であった。入試科目が異なるので12年度入試と13年度入

表6-1 推薦入試と入学後の成績の相関係数 (平成12年度)

	小論文平均 (N=36)	個人面接平均 (N=36)	集団面接平均 (N=36)
英語 I	0.046	-0.098	0.016
オーラルイングリッシュ I	0.153	0.049	0.073
有機化学	0.130	0.063	0.099
生化学 I	0.236	-0.022	0.179
解剖生理学 I	0.306	0.033	0.287
食品学総論 I	0.126	0.033	-0.111
食品学総論 II	0.209	-0.023	0.162
栄養学総論 I	0.098	0.095	-0.022
栄養学各論 I	0.237	-0.222	0.165
調理学	0.368*	0.118	0.130
給食管理	0.280	-0.036	0.002
栄養指導論 I	0.293	0.016	0.317

(* : p<0.05)

表6-2 推薦入試と入学後の成績の相関係数 (平成13年度)

	小論文平均 (N=47)	個人面接平均 (N=47)	集団面接平均 (N=47)
オーラルイングリッシュ I	0.316*	0.028	0.006
有機化学	-0.030	-0.127	0.002
生化学 I	0.154	0.053	0.020
解剖生理学 I	0.088	-0.153	0.029
食品学総論 I	0.031	-0.032	0.090
食品学総論 II	0.068	0.166	-0.173
栄養学総論 I	0.241	0.048	-0.143
調理学	0.117	0.096	0.093

(* : p<0.05)

表7-1 一般入試成績と入学後の成績の相関係数 (平成12年度)

	英語 (N=18)	国語 (N=34)	化学・数学 (N=7)	生物 (N=45)
英語 I	0.120	0.186	0.998*	0.195
オーラルイングリッシュ I	-0.378	0.245	0.593	0.095
有機化学	-0.715**	0.255	0.604	-0.074
生化学 I	-0.003	0.071	0.645	0.128
解剖生理学 I	0.082	-0.147	0.359	0.301
食品学総論 I	-0.016	0.356	0.464	0.080
食品学総論 II	-0.089	-0.191	0.744	0.031
栄養学総論 I	-0.183	-0.137	0.479	0.276
栄養学各論 I	-0.572*	0.110	0.294	-0.211
調理学	-0.559*	0.188	0.584	-0.292
給食管理	-0.320	0.454*	0.233	-0.203
栄養指導論 I	-0.365	0.205	0.988	-0.107

(** : p<0.01 * : p<0.05)

表7-2 一般入試成績と入学後の成績の相関係数 (平成13年度)

	国語 (N=24)	数学 (N=21)	化学 (N=10)	生物 (N=35)
オーラルイングリッシュ I	-0.202	0.268	0.000	0.133
有機化学	-0.077	0.149	-0.046	-0.018
生化学 I	-0.147	-0.093	0.355	0.007
解剖生理学 I	-0.376	0.413	0.368	0.134
食品学総論 I	-0.488*	0.185	0.338	-0.027
食品学総論 II	-0.268	0.058	0.675*	0.167
栄養学総論 I	-0.200	0.176	0.254	0.134
調理学	0.026	0.378	0.135	0.014

(* : p<0.05)

表8-1 専門分野別成績と一般入試成績との相関（平成12年度）

	一般入試受験科目		t 値
	英語 (N=18)	国語 (N=31)	
英語 I・オーラルイングリッシュ I 平均	83.64	72.18	7.016**
専門基礎科目平均	74.27	66.30	2.182*
専門科目平均	75.81	70.28	2.427**
全科目平均	76.67	69.53	3.273**

	一般入試受験科目		t 値
	化学・数学 (N=7)	生物 (N=45)	
英語 I・オーラルイングリッシュ I 平均	77.57	75.92	0.697
専門基礎科目平均	72.24	68.57	0.857
専門科目平均	76.41	71.60	3.747**
全科目平均	75.43	71.52	3.151**

(** : p<0.01 * : p<0.05)

表8-2 専門分野別成績と一般入試成績との相関（平成13年度）

	一般入試受験科目		t 値
	国語 (N=25)	数学 (N=21)	
専門基礎科目平均	70.68	77.05	-1.995*
専門科目平均	66.75	71.79	-2.106*
全科目平均	68.42	74.03	-2.887**

	一般入試受験科目		t 値
	化学 (N=11)	生物 (N=35)	
専門基礎科目平均	79.79	71.70	3.243**
専門科目平均	72.91	67.89	2.311*
全科目平均	77.14	70.92	3.946**

(** : p<0.01 * : p<0.05)

試は比較にはならないが、入試科目に英語が必修の場合は英語とともに他の科目も意欲的に取り組んでいることが推定される。

従って、英語が入試科目として必修となった平成13年度入学者において相関が認められたことは、入試科目として必修の英語を設けることによって高校の成績をある程度客観的に測ることができることを支持するものと考えられる。

2. 高校の成績と入学後の成績との相関

高校の成績と入学後の成績との相関では、平成12年度入試で、食品学総論 I、栄養学総論 I、栄養学各論 I、調理学、給食管理、専門科目平均点、全科目平均点に相関がみられた。13年度入試では、食品学総論 II、栄養学総論、調理学、専門科目平均点、全科目平均点に相関がみられた。これらのことより、高校の成績と入学後の成績には弱いながらも相関が認められたと言えるが、前述の通り今回の入学後の成績は履修科目の一部しか利用しておらず、今後のさらなる検討を要するところである。しかし、高校で意欲的に学習してきた総合

的な評価として、高校の成績が入学者選抜の客観的な資料となりうることを示唆している。

3. 入試の種別と入学後の成績との差

入試の種別では推薦入試、一般入試、センター入試の順で入学者の入学後の成績が高いことが示唆された。推薦入試は、小論文、個人面接、集団面接の結果により選抜を行っており、高校の成績が、基準を上回っていなければならない。この点について、学校間差は考慮していないが、個人の資質の高さを維持し、入学後の成績に反映されたことも考えられる。しかし、それぞれの試験の集団の数が異なることも影響していると思われるので、今後さらなる検討を要する。

4. 入試成績と入学後の成績との相関

推薦入試において、小論文の成績が、調理学、オーラルイングリッシュ I と相関がみられ、入学後の成績をある程度予測するのに有効と考える。また、一般入試では平成12年度と平成13年度では

入試科目が異なるので比較は困難だが、一般入試の科目全体の平均からみると、平成12年度では入試科目で英語、化学または数学を選択した者、平成13年度では数学と化学を選択した者が入学後の科目の成績も高い傾向にあることがわかった。しかし、今回の入学後の成績は入学後1年目、2年目のものであり、全ての履修科目について検討されたものではない。この点も今後の課題である。とくに、今回は実習科目の成績を利用していないが、学年が進行すると専門の実習科目も多くなることから、今後の検討は一層重要と考える。

5. 入試のありかたについて

どのような入試でも受験者を客観的に評価することは容易なことではなく、客観的評価に向けた、多面的な研究が行われている。今回の結果から、入試の種別では推薦入試、一般入試、センター入試の順で入学後の成績が高いことが推察されたが、それぞれ母集団の数が異なることを考慮すると、さらに継続的な調査研究を行って多くのデータを集積することが重要と思われる。入試科目では国語と数学の場合は数学を、化学と生物の場合は化学を選択した者が入学後の成績が高いことが認められた。また、必修の英語は高校の成績、学習成果を客観的に評価できるものと推察された。このことは、今後の管理栄養士の専門分野の学習能力を測る入試科目の検討、求める学生像を高校や管理栄養士を志す高校生等に具体的に示す上で貴重な資料となる。推薦入試の入学生が入学後の成績が高いことは、現在の推薦入試の意義を裏づけるものである。とくに、幾つかの科目と相関が見られた小論文について、有効な選抜方法としてさらなる検討を加えていくことが必要と思われる。

VI. まとめ

本研究の結果、次のことが明らかになった。

- ① 高校の成績と入試成績の相関では、英語が必修の場合（平成13年度）、英語のみ相関が認められた。
- ② 高校の成績と入学後の成績では、食品学総論Ⅰ・Ⅱ、栄養学総論Ⅰ、調理学等8科目と全科目平均点に相関がみられた。
- ③ 入試の種別と入学後の成績のでは、推薦入試、

一般入試、センター入試の順に入学後の成績が高い傾向がみられた。

- ④ 入試成績と入学後の成績では、推薦入試では小論文との相関が見られた。一般入試では、12年度は英語と化学または数学選択者、13年度は数学、化学選択者に成績（平均点）が高い傾向が認められた。

VII. おわりに

入試は入学後の学習を効率的に進める基礎的能力を測定することが大きな目的である。管理栄養士をめざす学生には、どのような基礎的能力が必要なのであろうか。養成課程においては、平成12年度の管理栄養士法の改正により業務が明確化され、管理栄養士養成を目的とした5つの能力が示された。これを受けて教育目標・カリキュラムが明確になった。今回の栄養士法改正を受けて、カリキュラムが「人」に重点をおいた専門分野が充実された。その内容とは、管理栄養士の業務が、「傷病者に対する療養のための必要な栄養の指導、個人の身体状況、栄養状態等に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養指導並びに特定多数人に対して継続的に食事を提供する施設における利用者の身体状況、栄養状態、利用状況に応じた特別に配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等」と明確化されたことを受けての改定である。これらの学問に取り組む基本的な能力と資質とは何か、それををいかにして適切に測定するかを具現化することは重要な課題であり、今後の検討を要するところである。入試に関する研究は医師、看護師養成校（大学など）で行われているが、管理栄養士養成を目的とした学士課程における研究はされていない。この種の研究が他大学においても実施されることを期待したい。

謝辞

本研究は、平成13年度天使大学後援会研究助成を受けて実施されたものである。本研究を実施するにあたりデータ利用に関して特段のお取り計らいを賜りました方々に感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 厚生労働省, 管理栄養士国家試験出題基準改定検討会報告書、平成14年 8 月29日
- 2) 前掲
- 3) 前掲
- 4) 国立大学入学者選抜研究連絡協議会, 国立大学入学者選抜研究協議会大22回大会研究発表予稿集, 1-91, 2001
- 5) 山本昇, 看護教育機関における入学者選抜方法の検討, 日本看護教育学会誌, Vol. 8, No 1, 17-27, 1998
- 6) 小山まり子, 菱沼典子, 菊田文夫, 近藤潤子, 看護学士課程における入学者選抜方法の検討, 聖路加看護大学紀要, No.20, 1993
- 7) C. R. Kimball, M. D., 植木研一 (抄訳), 医学部入学者選考における面接技法とその評価, 第10回日本医学教育学会大会抄録, 303-305, 1977
- 8) 天野断子, 池辺敏子, 瓢風須美子, 卒業時の学業成績からみた入試の検討, 第13回看護教育, 1982
- 9) 額田, 高垣東一郎, 学業成績の追跡調査, 医学教育, 第8巻, 第2号, 1976